

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895200265		
法人名	医療法人社団 医伸会		
事業所名	スマイルぜんかいグループホーム		
所在地	兵庫県神戸市西区前開南町2丁目14-4		
自己評価作成日	令和 元 年 11 月 23 日	評価結果市町村受理日	令和2年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	令和 元年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念を「スマイルぜんかい」と掲げ、入居者様、家族様、スタッフ間共に「スマイル(笑顔)全開」で接せるように働きかけています。
隣接するクリニックの医師と看護師が1週間に1回来所し、ホームの看護師と介護職が連携し、入居者様の日頃の体調や様子をチェックして管理、24時間報告・相談出来る体制があり、体調変化時、早期の対応が可能な為、医療面や安全面に不安なく生活をして頂けます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄の駅のそば、母体法人のクリニックに隣接した複合型福祉施設の中にある。周囲には福祉事業所が数多くあり、運営推進会議に出席しあう等良好な関係を維持している。周囲の事業所よりも後から開業したため、様々な面で助けてもらうことが出来、職員から昇格した管理者は安心して事業所運営に取り組んでいる。法人のきめの細かいサポートがあり、明るいパステルカラーのフロアは階によって色違いに彩られ、季節ごとの温湿度管理も徹底されている。5階屋上テラスは格好の外気浴の場となり、テラスで利用者が万歳をしている写真が玄関で来客を迎えている。前年度の第三者評価のアドバイスに沿って書類整備を整え、窓ガラスの目隠しを工夫して採光をよくする等、この1年の努力が見受けられる。今後も玄関の写真のように利用者、職員のスマイルが「ぜんかい」であってほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい理念をあげることで、職員に周知し、その理念を共有して実践につなげている。理念は分かりやすい位置に掲示している	施設理念に加えて、名称そのままの「笑顔ぜんかい スマイルぜんかい」を事業所理念として掲示し、利用者も職員もいつも笑顔でいられるような、笑いを忘れない支援を意識している。名称は公募にて決定されたために職員も思い入れがあり、新しく作った笑顔マークとともに大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の飲食店やコンビニを利用し、この地で生活している感覚をもっといただいています。また近隣の施設行事にも参加している	駅から徒歩数分の好立地に建つが、昔ながらの住民で作る自治会への参加が出来ておらず、近隣の福祉事業所との付き合いが中心となっている。グループホームとしては歴史が浅いが法人のクリニックは約20年前から開業しており、法人を軸として地域との関係性が保てている。	懸案の認知症カフェの開店を期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事などに参加して頂いた時に、意見交換や情報提供を行っている。また入居相談や見学時に困っておられる際には出来る範囲で支援方法のアドバイスも行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議実施。ご家族やご入居者様にも参加して頂き、そこで話し合ったことを職員間で周知したり、不参加家族には議事録を送りサービス向上に活かしている	議事録は地域包括、家族に送付しており、市には年度分をまとめた形で提出している。玄関に閲覧用としても配置している。ヒヤリハットの公表が会議の場ではされているが、議事録には記載されていない。民生委員は出席していない。	議事録にヒヤリハットを公表されること、地区の民生委員に出席の案内をされることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター職員の方に運営推進会議に出席して頂き、運営や利用者の状況を報告して把握してもらっている。運営上不明なことは相談するようにしている。3か月に1回はGH連絡会に出席し、情報交換をしている	市には介護保険の加算の確認等の相談にのってもらえることがある。地域密着型事業所連絡会では、この地域をもっと知ってもらえるような地域情報マップ作りの提案があり、実現に向けて検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束に繋がる事案はないか検討、評価を行い、全体会議で報告し、職員に周知している。また、ご家族様や運営推進会議でも報告を行っている	隔月に各ユニットの聞き取り調査を行い45項目を5段階評価し、身体拘束適正化委員会で結果を報告周知している。玄関は主要道路に面しているため施錠されている。閉塞感を和らげる為に、利用者が他ユニットへ物品を配達したり、5階テラスでの外気浴を行っている。建物内に使用されていないフロアがあり、雨天時等には屋内散歩に利用している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で年2回身体拘束・虐待の勉強会を開催し、グループワークを用いてスピーチロック等の事例で検証することで、防止に努めている	虐待防止研修は職員全員が受講できるように数回に分けて開催しており、受講後はレポートを提出している。グループワークでは職員の経験した事例を取り上げることあり、現実にも似た事例で分かりやすい内容となっている。リフレッシュ休暇の制度ができて年1回は5連休をとれるようになり、職員のストレスを解消できる時間となるよう配慮されている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、外部講師を11月に招き、研修を行い、理解を深めている	活用例がないため、司法書士を外部講師として研修会を実施した。家族には情報提供をしていないが、利用者の状態変化によって、制度利用を踏まえた話し合いをすることもある。パンフレット等の準備はしていない。	利用者や家族の状況も年々変化するので、パンフレット等を準備され、契約時の説明に利用されてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の項目に沿って説明を行い、理解・納得の上、同意を得るようにしている	まずは見学を経てから契約に進む場合が多い。管理者が時間をかけて丁寧に説明している。重度化、救急搬送、DNRに関する同意書等が全員分揃っている。看取りに関しては事例がなく、今後本人家族の希望を聴きながら対応していくつもりである。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会を2回開催し、意見や要望を聴取できる機会を設けています。運営推進会議では出来るだけ多くの家族様に参加して頂くよう働きかけ、運営に反映できるよう努めている	前回の目標達成計画にも挙げているが、利用者が役割を持つ機会を増やしてほしいとの要望があり働きかけたところ、感染予防の手すり拭きや雑巾かけ等の様々な家事をする利用者が増えた。家族からは家族会等の案内をもう少し早く送ってほしい旨の要望があり、早めの案内を心掛けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のデイリーミーティングや職員全体会議の中で意見交換や情報共有を出来るようにしている。また出来る限りホーム長もユニット会議に参加するよう努めている	職員からの意見はホーム長やマネジャー、法人職員が聴き取りをするなど、備品購入や休日の希望を出しやすい職場環境づくりを心掛けている。冬は床暖房を使用して快適に過ごしているが、湿度管理が必要で加湿機の購入の提案があり設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部を軸とし、毎月の就業状態の把握や職員の得意なことを伸ばせるように職場環境作りに努めています		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要性に応じて研修費を負担し、研修へ行けるようシフト調整を行っている。 年間研修計画を立て、内部研修では担当制とし、テーマに沿った研修を行っています。また、外部講師を招き研修も行っている。研修後には報告書を提出してもらっている		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会や他施設の運営推進会議に積極的に参加し交流の場を設けている。 また他施設の催しにも参加するよう心掛けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や申込時には、細かいヒヤリングを行い、日常の様子を確認している。プラン作成時には出来る限り、本人の思いを聞くようにし、入居後は生活の中でこまめにに関わり、その都度不安等の解消に努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居・契約時にはアセスメントシートに沿ってご家族の思いや、要望、不安などを伺い安心して頂けるよう努めている。入居後も出来る限りコミュニケーションをとるよう努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用までの待機期間や、入居時、入居後の段階でそれぞれアセスメントを行っている。その時点で必要としている支援を見極め、他のサービス利用の必要性が感じられれば、相談をさせて頂いている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作は出来る限り、利用者様に行って頂き、介護される一方の立場におかず一緒に時間を共有しているという意識をもち、互いに感謝し、協力し合える関係作りに努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも信頼関係を築き、来て頂きやすい環境作りに努めている。行事のお知らせを行い、出来るだけ多くの家族様に参加して頂けるようにしている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力もあり、今まで住んでいた他県に外出したり、馴染みの友人に手紙を書けるよう、環境作りに努めている	普段の会話の中から利用者の意向を汲み取り、姉妹の住む遠方へ家族旅行に出かけたり、文通友だちの来訪等馴染みの人との関係継続を支援している。昔なじみの美容室に、変わらず通う利用者もある。年賀状は全員がコメントを書けるように計画している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション、各ユニット、ホーム全体の行事の参加の声かけを行い、一人が孤立せずに関わり合いを持てるような雰囲気作りを行っている		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談に応じる事をお伝えし、気軽にホームに立ち寄って頂けるようお声掛けしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中での関わり、会話の中で気づいた事や希望や思いを汲み取ってプランに反映できるように努めている、また言葉では表せない思いを汲み取れるよう意識している	現在は平均介護度も低くそれぞれの想いを口にすることができるので、普段から会話を積み重ね情報収集に努めている。器用で手芸好きな利用者が壁画作製のリーダーを務めたり、帰宅願望の強い利用者は他のフロアへ物品配達を役割としている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や利用者や家族との関わりの中で生活歴等把握出来るよう心掛けている。また入居時には出来る限り細かいヒヤリングに努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日変化している為、毎日意識をしてケアの中で観察している。本人は勿論、ご家族や医師、看護師などの意見やアドバイスも取り入れ、その時々現状把握に努めている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前には必ず、本人や家族の話を伺い、医師、看護師の意見も取り入れている。モニタリングも毎月行い6ヵ月毎の担当者会議と再アセスメントを経て、次のプランに反映させている	職員は一人が1～2人の利用者の担当を務め、家族の意向確認や毎月のモニタリングを行っている。普段から各利用者のニーズに沿ったケアができるように、介護計画のコピーをケア記録とともに綴じている。半年分のモニタリングを経て介護計画の見直しを行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に残し、変化や気づきは毎日の朝・夕の申し送りで伝え情報共有しており、有力な資料となっている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアさんに来て頂いたり、個々で買い物や散歩など外出する機会も行っている		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに来て頂いたり、近隣施設のイベントへ参加している。また近隣の店に定期的に外食したりしている		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医に関して希望を聞いているが、殆どの利用者様が母体医療機関を主治医としている。緊急時にはすぐに連絡出来る体制が出来ている	かかりつけ医の選択は自由であるが、隣接している法人母体のクリニックに、毎月1回、全利用者が通院しており、かかりつけ医にしている。他科受診の場合は、家族が付き添っている。7月から、希望者に歯科の往診を始めた。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内看護師と情報共有し、クリニックの看護師と連携をとり、必要時には受診をしたり、対応してもらっている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを提出し、情報提供を行っている。退院時には病院のソーシャルワーカーの方と電話で情報を頂き、ホームの職員が困らないよう努めている	今年度は1人の入院があったが、幸い1週間で退院できた。退院前カンファレンスに家族と共に同席し、退院後のケアプランに食事形態などで反映させた。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当者はいないが、入居時には重度化の指針を説明し、終末期の方針確認をしている。今後は関係者と内容をつめ、細かく固めていく方向である	重度化対応に関する事業所の指針を文書化して、契約時に説明している。緊急時の延命措置の希望について確認しており、意向が変わった場合は変更を随時受け付けることとしている。終末期を迎えたい場所を事前確認しているが、事業所内で看取って欲しいとの希望に対して、事業所としてどのように応えるかは、今後の課題であると管理者は考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会にて緊急時の対応などを行い、周知している		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定での避難訓練を実施している。防災委員も立ち上げ、毎月会議を開催し、委員を中心に本部や同施設内のサ高住とも協力し、災害時に対応出来る環境作りに努めている	主として火災発生を想定した避難訓練をしている。利用者も全員参加で、火元から遠いベランダへ避難している。各居室のドアの表札に利用者の顔写真と5種類程のADLを識別できる絵文字を掲示し、外部からの避難協力者への情報提供を図っている。非常用備蓄は保管場所の関係で、3日分としている。	地震発生を想定した場合、非常用備蓄食糧と飲料水は、1週間分を目標にすることをオススメします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重し、入居者様の居室に入る時にはノックをしたり、排泄等の声掛けは小声で行うなどの配慮をしている	利用者の入浴時には、入浴介助担当職員が脱衣所内の洗濯機も回しており、他の職員や利用者が不用意に脱衣場へ入室することはない。往診を受ける際、リビングと利用者の居室を臨機応変に使い分けることによって、プライバシーに配慮している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は決めつけるような声掛けではなく、自己決定しやすい言葉掛けを心掛けています。また入浴時の服選び等は自ら行えるように支援しています		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の「したい」「やりたい」を尊重し、言葉や表現が難しい方には、表情や態度から汲み取るようにしている		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回の訪問理美容を利用し、カットやパーマ、カラーの施術をされている。また外出時には、化粧をしたり、おしゃれ着に着替えて頂いている		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と共に食事を摂り、楽しみをもてるよう音楽をかけている。個人の力量により調理をしたり、盛り付けたり、下膳を行って頂いている	日頃は給食会社から届く食材を湯煎し、事業所内のキッチンでは炊飯と汁物を温めている。利用者は、片付け、食器洗いなどを手伝っている。昼食では、月2回づつの宅配食や企画食で利用者の希望を聴き、たこ焼きやホットケーキなどのおやつレクも楽しんでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取表を用いて1日の摂取量を把握している。食事量も個人に応じ調整し、完食した喜びをもって頂けるよう支援しています。食事量はその方に応じ、キザミ、カット、ペーストにし提供しています		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を導入し、必要時には歯科医にアドバイスを頂いている。食後には口腔ケアを促し、介助や付き添い、清潔保持に努めている。夕食後には、洗剤を用いて義歯を洗浄している		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、トイレへ声掛け誘導する。頻尿な方には、青竹踏みを導入したり、水分管理等気をつけて行っている	布パンツを使用している利用者は数名で、他はリハビリパンツであるが、全員がトイレで排泄している。立位や座位で自立が保てるように、利用者はラジオ体操、タオルや棒体操などの動画をテレビで観ながら、生活リハビリに励んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず排便が出来るよう、水分管理、温罨法、適度な運動や、腹部マッサージ等配慮しているが、医師・看護師に相談し、触診を行い、緩下剤を用いている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で、体調不良等があった場合や汚染があった場合、臨機応変に対応している。一般浴での入浴が難しい方は、機械浴での入浴を行っている	併設されている事業所の機械浴を使っている利用者が一部あるが、ほとんどの利用者は事業所の一般浴を利用している。利用者のADLに合わせて浴槽周りの手すり、浴槽内の座椅子、霧状の湯が噴出するシャワードバスなどが用意されており、利用者が安全で快適な入浴が出来る様、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間等個人のペースに合わせて対応している。体調や、日々の状態を確認し、日中の臥床を促す場合もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、一包化や一元化を行い、分包している。カルテには最新の薬情を挟んでおり、すぐに確認できるようにして、分からない事は看護師に相談を行い解決している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やしたい事を取り入れ、家庭菜園や生け花、書道等を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿って、出来る限り散歩に行けるよう努めている。また日帰り遠足、外食会、買い物や家族様の協力もあり、遠方に出掛けることもある	利用者のその日の気分に合わせ、1人の職員が概ね2人の利用者につき添って散歩している。散歩コースは個別対応であり、40分のコースを歩く利用者もある。見晴らしの良い5階のテラスが、格好の歩行訓練の場となっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や、日帰り旅行では、入居者様個人にお金を持って頂き、自身で好きな物を選び購入し、使えるよう支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にも了承頂き、個々の希望時電話等で話して頂けるよう支援している。 入居者様が好きな時に手紙を書けるよう環境作りに努めている		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・フロア等四季を感じて頂けるような壁面作りを行っている。入居者様にとって不快や混乱を招かないよう、湿温度計で温度管理をしたり、テレビの音量や内容にも配慮している	開設後2年弱であり、全体的に新しいままで清潔である。床暖房が施されているリビングには、大きなテーブルが3台とゆったり座れるソファが置かれ、四畳半相当の量の間があるが、余裕を持った広さである。壁面には、利用者が主体となって作った大きなちぎり絵などの作品などが飾られ、季節感を盛り上げている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫したり、ソファや畳の場所を、個々の気分に応じて過ごして頂けるよう配慮している		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人が心地よく過ごせるよう、本人や家族様と家具の配置と一緒に考えたり、個人が以前から使っておられた、親しみのある物や写真等を飾っている	ドアの前に掲げられた利用者の写真入りの表札の下に、職員手作りの季節の作品がセットされているのを見ると、職員のセンスと暖かい気配りを感じる。利用者は、好みの整理ダンスや椅子、家族の写真、遺影、仏壇などを置いて、くつろぎやすい空間を作っている。全ての居室の外をテラスが巡っており、部屋の中は明るい。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内やトイレ等分かりやすく表示する事により、自立した生活を送れるように工夫している		

(様式2)

事業所名:スマイルぜんかいグループホーム

目標達成計画

作成日: 令和 2年 1月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域交流スペースの活用が出来ておらず、行事以外での地域との交流が出来ていない	地域交流室を開放し、集いやすいスペースにしていく	カフェやイベントを企画し、グループホームだけではなく、併設しているサービス付き高齢者向け住宅の利用者の方との交流や地域施設との交流を図る	12か月
2	4	運営推進会議にて事故報告やヒヤリハット報告の公表は行えているが、議事録には記載がされていない	運営推進会議の議事録を不参加の方が見ても分かりやすく作成していく	議事録の中に公表している事故報告やヒヤリハット報告、ご家族様や構成員メンバーの会話を細かく記載していく	3か月
3	4	・運営推進会議に地域の代表として民生委員が出席できていない ・地域内の活動の様子など現況の共有が出来ていない	民生委員の方に声をかけ運営推進会議の構成員になって頂く	当ホームの地区担当の民生委員様を探し運営推進会議のお誘いを行う	3か月
4					月
5					月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()